

「失敗を恐れないで」 佐藤 洋祐



目に映る色彩豊かな花々はもちろん、息吹出した新緑の清々しい青さも心の一服の清涼剤です。そんな若葉のような生命力に溢れた若者たちと共に、ジャズを聞いた練習したりする機会が、コロナ禍の一段落と共に増えてきたように感じます。

そのような中、この3月の末にも、石川県金沢市の主催のもと若者たち向けのジャズキャンプに講師の一人として参加いたしました。

たった3日間のキャンプの間で成果をみよう、というのは難しいことですが、このキャンプでは参加者の方々に更に音楽を楽しみたくするような「やる気」「やりがい」を感じてもらおうきっかけにしてみたい、という期待を持って臨んでいきます。その時に、一番伝えたいことは、「失敗を恐れないで、やりたいうことに思い切り取り組んで欲しい」ということです。

今振り返れば、私もミュージシャンとなるために、お勤めしていた会社を辞めた時、渡米した時、また日本に活動を戻した時などなど、いずれの転機においてもいろいろなお意見をいただきました。中には私の決意は失敗に終わるだろうから、それは辞めた方がいい、というお言葉もありました。もちろんそれらは皆さまの善意からのご意見ですから、今も感謝の気持ちと共にそれらを思い出して居るのですが、当時の私にはやりたい、と固く思い込んだことがありましたし、幸いにもそのわがままを通せる周囲の環境に恵まれましたから、思うまま存分に取り組むことができました。後から、それらが失敗だったか、成功したのか、ということとは、正直なところで申し上げますとあまり考えなかったかもしれませんが、間違いないとその時トライして良かった、やったからこそ今の自分があり、後悔のようなものがないのももちろん、やらなかったらどんなに後悔していたら、と思うて居る次第です。

話しの次元は私の場合とは全然比較にならない事は良く承知して居りますが(笑)、先日のワールド・ベースボール・クラシックという国際スポーツイベントで活躍されて、多くの方々に夢と希望を与える野球界のスーパースター大谷翔平選手に、「失敗を恐れずに取り組む」逞しい人間の姿をみます。

彼は彼がおそらく大好きで仕方のない野球の投手と打者の役割、その両方をどちらか片手間にすることなく、バットを握った時は打撃のスペシャリストとして、またマウンドに立ったときは一流のピッチャーとして今や世間から認められておいてですが、彼がプロ野球選手として日本ハムファイターズに入団された頃には、世の殆どの人々が投手か野手(打撃を専門とする選手)のどちらかに専念するべきだ、でなければ大谷は失敗するぞ、とお考えでした。彼は失敗を恐れたかどうかはわかりませんが、例えそうだとしてもその恐怖に打ち勝って、今やどちらの分野でも多くの方々から認められている史上類稀な存在です。これも私の想像ですが、彼はそのチャレンジの後の結果について、失敗したか成功したか、ということもあまり考えていらずに、失敗したのではないかと推測しますし、おそらく、今のこの栄えある状況をさえも、成功とは思っていらっしやらないのでは、とも。ただあるのは、これからは好きな野球を思い切りやっていきたいとの強い思い、そして彼は野手、投手どちらの役割も大好きである、ということ。そして、自らの責任のものと一つの決意をし、その決意に向かって日々取り組んだことで、彼が野球選手としてだけでなく、人間として大きく成長した、ということ。失敗を恐れるがゆえに、私たちは発言を取り下げ、自分の本当の思いにさえも蓋をしてしまうものですね。思いを発言した瞬間に、私たちには想像もつかない程の大きな責任がかぶさってきて、とてつもない苦しみに見舞われます。しかし、そこから逃げることなく取り組めば、結果が失敗したか成功したかはともかく、私たちは大きく成長することができます。成長する、という事にはいろいろな面があるでしょうが、私ごとりわけ大きな意味を持つと思うことは、実に多くの方面に感受する力を得ることができると、ということ。そういう経験が、自分以外の人の心を理解する力を与えてくれると。

若い彼らがミュージシャンとしての商業的な成功を目指すのも素晴らしいですが、失敗成功にとらわれず、今思う打ち込みたいことに取り組んでみる、そうしてスケールの大きな人間に成長する彼らの姿がみたいな、と思う私。そんな己自身、今日も、今も失敗を繰り返しながらも、ひたすらにその時その時に好きなことに挑みかかっています。(2023年4月9日筆)

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)

ジャズミュージシャン。サクセス妻者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。